

# いがとこわか通信 vol.4

～三重とこわか国体をもっと知ろう～

1986（昭和61）年に山梨県富士吉田市で開催された第41回かいじ国体に参加し、現在、上野少年剣道教室で小中学生に指導されている松谷隆弘さんに話を聞きました。

**Q. 剣道を始めたきっかけを教えてください。**

**（松谷）** 子どもの頃は親にさせられていたように記憶していますが、剣道を続けたお陰で忍耐



力がつき、今の私があると言っても過言ではないと思います。

**Q. かいじ国体に参加された印象を教えてください。**

**（松谷）** 私が参加したのは高校3年生の時でした。国体では通常の全国大会よりも観戦者が多くて緊張するかなと思いましたが、意外と緊張せずに試合に臨めたことを覚えています。

**Q. とこわか国体への思いを教えてください。**

**（松谷）** 地元開催なので、国体が盛大に行われてほしいと思いますし、これをきっかけに剣道界も盛り上がってほしいと思います。

**Q. 市民の皆さんへメッセージをお願いします。**

**（松谷）** 剣道競技はゆめドームうえので開催されます。剣道とはどのようなものかぜひ試合を見て肌で感じてほしいと思います。

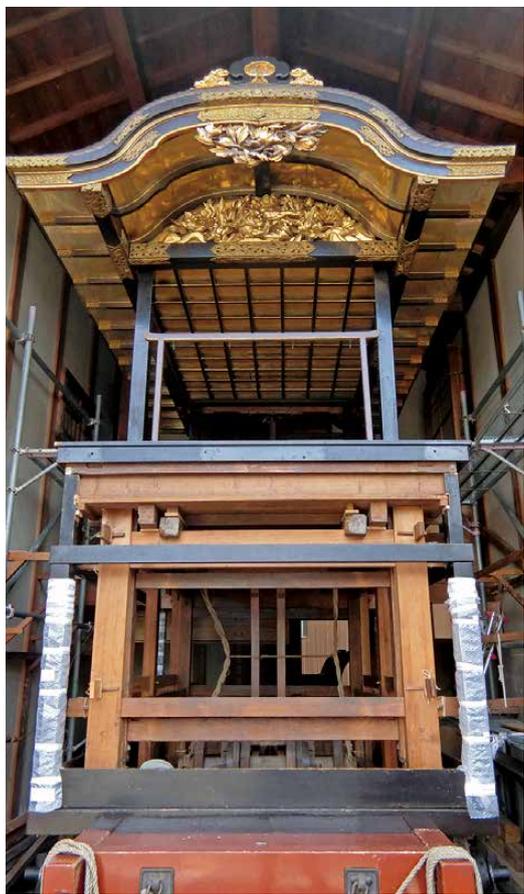
## 伊賀市の文化財 124 鍛冶町楼車解体修理

上野天神祭で使用される楼車の中には、老朽化により、祭りでの巡行に支障が生じているものがあります。このことから、上野文化美術保存会では、国・県・市の補助を受けて、楼車の修理を順次実施しています。

事業を進めるにあたって、上野天神祭復元修理事業等審議会を開催し、有識者の指導・助言のもと、祭屋台等製作修理技術者会に登録された業者などに修理を依頼しています。

鍛冶町の楼車「二東」は、構造にガタツキが生じたため、平成29年の祭り終了後から30年の祭りまでの間に修理を行いました。

楼車蔵で楼車を全て解体し、車輪修理は京都市の業者に依頼すると



もに、各部材の破損箇所は矧木や埋木などによる修理を行い、できる限り元の部材を生かしました。また、屋根板の裏打ちは、長浜市の専門業者に依頼し、その後各部材を組み立てて元通りに戻し完成しました。昨年の祭りでは本来の形に甦り、スムーズに巡行されました。

この解体修理の結果、後唐破風の裏側の渡り栓から、新たに天保10（1839）年の墨書が発見されたことから、楼車が天保から弘化年間にかけて製作されたことがあらためて確認されました。

今年の祭りでは、絢爛豪華な幕や金具だけでなく、楼車の構造にも着目してお楽しみください。

文化財課

☎ 22・9678

FAX 22・9667